

## ガイドライン策定上の課題について

本市の現状としては、能勢町産材をはじめとした府内産材（以下「能勢町産材等」という。）を利用した事例が無いという状況であり、能勢町産材等の利用を推進するためには、汎用性のあるガイドラインが必要である。汎用性のあるガイドラインは、施設管理等を行う部署の職員が、どの様にすれば公共施設に能勢町産材等を利用できるかを理解でき、実践できるものである。すなわち、何を、いつ、誰に対して、どのようにすれば、能勢町産材等を利用できるのかが分かるようなガイドラインを想定している。このような汎用性のあるガイドラインにするためには、特に以下の事項について調査し、体系的に整理する必要がある。

### （1）法令上の制限について

- 建築基準法等の法令による制限

### （2）木材の流通状況等について

- 能勢町産材、府内産材及び国産材の流通状況、品質、価格等

### （3）建設コストについて

- 木造と非木造との整備費の比較
- 地域材利用の助成制度、耐用年数、税制面等の建設費以外のコスト評価に係る事項の整理
- コスト縮減方法

### （4）木造化・木質化について

- 企画立案・発注・設計・施工・長寿命化対策（設計時）に関する留意事項

### （5）木造化・木質化建築物について

- 能勢町産材、大阪府内産材及び国産材を用いた建築物等に関する事例

### （6）維持保全等について

- 劣化診断、維持保全に関する留意事項
- 木造と非木造の維持管理費の比較

### （7）施設の分類について

- より実用的なガイドラインとするために、施設の性質等に応じて、一定の基準で分類し、各分類に応じた導入内容をガイドラインに盛り込む予定。一例としては、施設の規模等がある。どのような分類軸が適当なのかを、検討し整理する必要がある。

### （8）CLT等の新技術について

- CLTや防耐火部材等の今後期待される木造化や木質化の新技術に関する事項

これらの事項について体系的に整理するとともに、事例を交えての解説やグラフや図表の活用により、木材や建築に関する予備知識が無いような者であっても分かりやすい内容にする必要がある。